

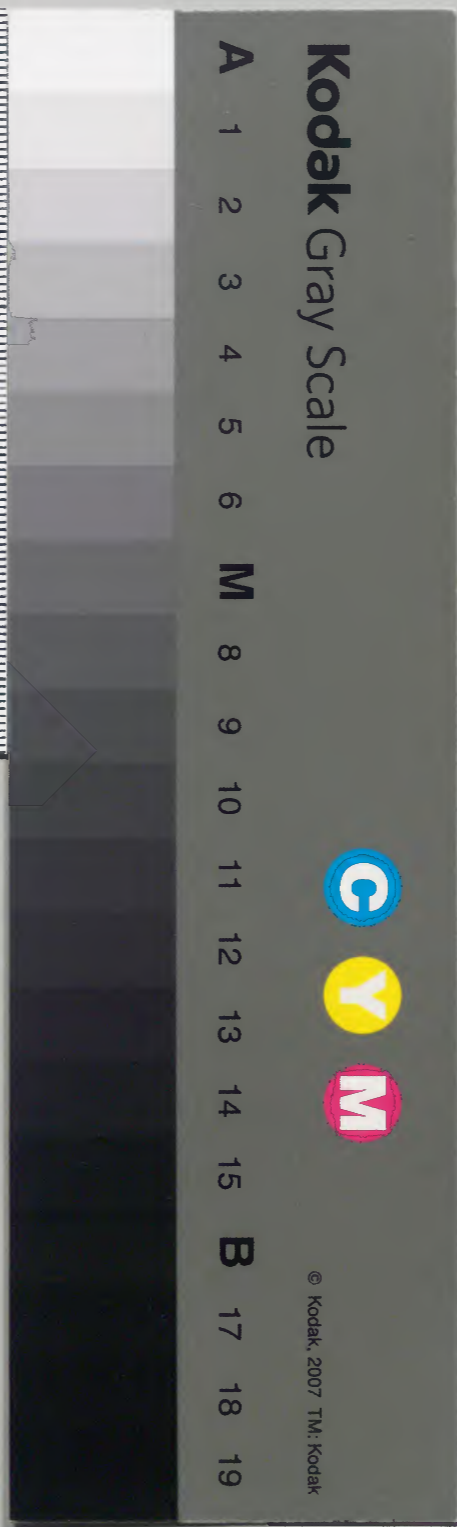
# 寛永日記

十

和書門類		
八六四九	九	五
函	三	冊
架	五	八
號	冊	冊

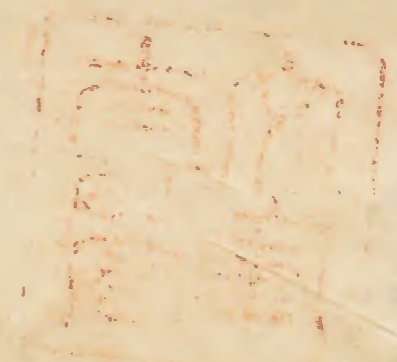
内閣文庫		
和書類	八六四九	函
冊	九	三
架	五	冊
號	冊	冊

内閣文庫		
番號	和	8649
冊數	58(10)	
函號	163	180



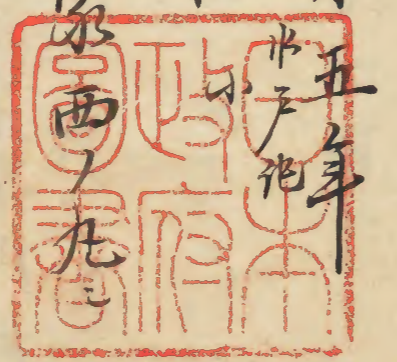
綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり



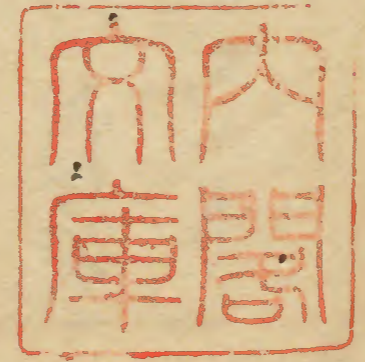


東武圖書  
將軍家

寛永四年四月



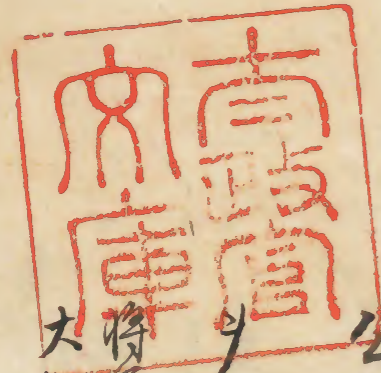
坂河内大納言



孫系涉尾ノ間ノ御  
將軍家

公ニ 涉對顔右田采女正資家涉磨斗

少持出 公卜 將軍家ノ御間ニ盡



將軍家ノ御上候ニ  
大納言忠心長御ノ下候  
御印  
將軍家ノ御間ニ盡

將軍家還御



紀列地

一 吉 師城ノ師抄仕但師中禮也

東武実福

一 細門之師 師禮二具 師子無師葉子ヲ献

是 日光師登山之儀ナリ 師内書ヲ三

之末ニ端ル

宗僧

和田僧友乃惟長子五助惟重父ノ中記也

山名平方ノ豊政退居此礼常凡一ニ双指程正 献主殿維豊  
友若ノ初見 太刀付ノ 献 三代金主教

四月二日

東寺実福

一 明云 公水戸中納言頼房仁ノ子ニ

酒師アルニ依テ師礼トシテ西ノ丸 師中禮ニ

登テ 女若高岡ノ抄付紀原大納言頼房仁

師礼トシテ登 城 以上水戸紀原 女若高岡ノ子ニ依テ

羽白帯乃乃也ニ依テ花能俣也字義

師成ノ儀也此ルヘキノ由 在書ヲ以テ

師出ガルニ依テ師礼トシテ登 管ニ

一 紀列地 紀列地 水戸標 以成ノ礼殿標同於女若



四艺塔

四月三日

一 公中細多杉房の事。後仰山相律紀律  
極宜之。為事之。虎丹好七之。立氣定  
豫。未之。意。中別。杉房。出。速。下。西。九。之。也。

公卯中別。海仰杉房。之。亦。為。現。一。也。出  
市。水。未。中。之。附。之。市。先。之。之。未。也。作。之。修。之。杉  
房。之。也。先。之。之。也。市。中。律。衆。毛。外。露。為。之。何。候  
新。易。局。一。休。也。也。

新易局飾

掛拍由良ノ彦 卷 姥口 水括 伊豆院

茶入 文殊 茶挽 新 茶敬 利休

香合 江原 四年  
山崎 四年  
山崎 四年  
山崎 四年







白樂天 号玄 法經 叙世 野之妻 七七支

黑塚七支 杜君 叙世 山鏡 号玄 野之妻 七七支

祝言 七七支

猿樂四者過テ 侍成之儀ニテ 侍儀 盤掛 轉

二轉ハ 侍者 盤ニ 轉ハ 糸 和儀ノ 侍方ヨリ

侍者ノ 卷 糸ヲ 轉ス 杖 置ニテ 石上ニ 頼定

白頂戴ニテ 盤ニ 返上 杖 居ハ 白ニ 揚ル 返上ノ 時

侍馬ヲ 轉スニテ 虎侍 名ヲ 頂戴 給納スル

猿樂畢テ 還所 各以 礼ト 西ノ 東上 手前 西ノ 東上

相國云 爲 成ノ 爲 礼 亦 是 夜 也 四ノ 夜 也 城

相國云 卯 別 由 是 夜 亭 也 爲 成 映 刻

還所 爲 侍 礼 亦 是 夜 也 城

國傳 紀 年 隔 在 二 四 成 ノ 一 ア リ



四月廿日

水戸記

一 踏河及岸へ明六のりた

成宮紀前及水戸

信守と清の如き

上野記

信守と清

為り礼と水戸

城

水戸及水戸

水戸

上野記

退去

水戸記

一 上野記 上野記 水戸記

是亦水戸記中より又水戸記

水戸記 水戸記

一 水戸記 上野記

水戸記

四月廿日

水戸記

一 水戸記 上野記



元及辰新品法 抄本云去月十日

伊成月系 事案係 伊補定西月日  
四本件 抄本云 伊成月系 伊成月系

伊成月系 伊成月系

國幣元

北丸 將軍杯伊成

月々西丸古物及古物伊成月系

於水丸古物及古物伊成月系

四月十日

水丸 伊成月系

西丸 大樹月系 伊成月系

紀列月系 將軍杯内古物及古物伊成月系

甲子月系 伊成月系

乙未月系 伊成月系

上三意月系 伊成月系







上紀原及載跡所及すつゝある後とあり  
そはとれつゝおと律元之旨納付の原  
將軍梅之原原色うゝは中細之原  
けらぬ 四條之原、お柳の給原子也之  
お原とけうの能く相四條之原上原と  
のち廊下之儀の原と 水之原と中  
四條之原能く書道 四條之原之原上原  
證神二つの中三軸の原と持原と下

是れと 將軍梅之原上四條之原及載其  
原 寺あり上四條之原及載 四條之原上  
水之原及載 四條之原上自水之原上之原  
中とありあり納 一 將軍梅之原と  
紀原之原  
常の中とあり付あり原と中とあり及あり  
し中とあり上しつゝあり原と中とあり原と  
し中とありあり上しつゝあり原と中とあり







宝曆二年  
四月十三日

江州子孫

一 朝余織於山守り所也

作舟  
松平新五  
左衛門

四月十日

紀列分紀

一 朝余織於山守り所也

四月十日

四月十日

在東山子孫

一 朝余織於山守り所也

相七

公是也山守り所也



水戸紀 紀伊紀  
徳山系集 啓因

安永  
河原田下中下田之子左内侍下河原下河原  
お多福の社奉仕存

尾花友 紀伊友 永友 多田友 多田友  
三条中河之室條 中河之河之河 大橋侍候書  
高 高 高 高

四月十日

一 尾花友 紀伊友 永友 多田友 多田友  
高 高 高 高

高 高 高 高

苗田友の苗田工多一苗田友大書

四月十日

一 折井市兵衛 次男友永 河原田  
高 高 高 高

高 高 高 高

將軍家御存一書

高 高 高 高  
河原田友の苗田工多一苗田友大書

四月十日



水戸日記

一 相國云々市ノ侍長尾列及紀列及水戸及町

未也何云 四月四日早六甲之侍長尾侍

申刻ノ市役如日之長

國原日記 日之侍長尾

一 自云方極以三浦之摩子 以義理向之

江城年録  
坊神意水戸記六十七日  
實系系圖六月廿九日

一 田光 若御屋法要如多也 紀侍重相

新主人ノ水戸門前屋台詰 被拜念先

是 一糸大相兼殿云云 糸大相云 兼係

中候中細之通村之屋守如永春 勤内書 東辰

水信夜月ノ云々 糸大相 同中候兼係 及妙法何云云

梨本者流 其甚也 其純者 糸向人信云

三浦江門 其公海 其山 糸大相 兼係

乃有 紀侍重 宿業 般有 公控 未也云

封也 彼之 侍長尾 款二 宿項 其性業也

又題 宿業 年富 知文 雅冊 新宿 序品

照年 東方云云 而 侍長尾 其年 刻之 郷



群臣及寺僧新羅也立細一且被寺僧中  
帛中及金曼珠德良也寫偈以此也  
也德令澤正尹好仁親王去院經凡以此  
輔一皆手細一

四月十七日

國師日記

一 田老所請奉

紅紙羊紙

一 清淨所祀神奉 以奉清淨寺一系大古臣

兼經 三條大納言實條中納言大納言通村

物法門院法喜蓮德門院權井門院並如德

俊重等

死

一 清淨所祀 大相國坐假園而少院馬法云云

法門院列構假度而少院馬法云云

多於是 大相國法門院并假中如所



舞少四記

一 本照抄現十二年勝所一四納之系  
能より套上より年樂元より電心能  
振井及去々蓮心能及物法能及下空能  
こ一糸及四下空能

四月十日

國作日記

一 甲之江法能

記年編  
五五編

江堀年編  
相由稱四糸能

一 祐重寺南塔行接裁流頂了了法能令  
梨寺中島能入塔中了了終重在每階能  
人皆異之 古相由能能高及映端  
布施不可猶計矣



四月十五日

増補定永日記 在野実録

一 公甲より山出陣

意服方所より

一 御方は華懺法海原より守陣

秀忠公は中ノノ平及吉達御門に在り

人情と列せ

四月九日

在野実録 實録

一 池之原に少輔方敗卒 又少平一軍

藩報と御書  
子細御書  
御書

力  
吉田氏より御書あり

四月八日

在野実録 實録

一 大相より御書

御書

御書  
御書



四行書

水戸

一 尾高屋國作の 水戸路通口迄の 山越車

序

四行書

水戸

一 尾高屋と水戸路通口迄の 山越車

城の 水戸路通口迄の 山越車

城の 水戸路通口迄の 山越車

四行書







人馬及外西礼ニシテ 城子ニ對面ニ作

至西海也

高麗大所ヨリ州  
守ヨリ云云 奉 訪 法 令 奉 煇 于 時 自

天子客之 宿 第 之 心 所 於 千 之 亦 特 心 礼

去 之 畢 之 後 之 色 累 焉 且 後 四 智 傳 記

二 之 標 額 干 低 止 蓋 一 之 之 社 務 之 白

影 亦 而 且 且 之 所 者 アツサラヤシマノ海ヲヲサメヲキテ  
今ハ又同シ代ヲマゼル

時名ヲクヤ昔ノトハカリニ  
今ハノ海法ヲ空ニ因シ 勅 使 少 呂 峯 亦 原 親 題 之

持 付 之 心 所 及 於 諸 法 經 社 務 之 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 持 付 之 心 所 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦 亦

四月廿七日

將軍 家 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後 後



有法會々々々今到本最流為藏法寺作  
令其蓮陽之純唱也陀事終  
心平不 道師俄而由弘電大如務人  
皆為祥及晚瑞布絕如最亦の交法會  
社物一條兼遊 三架室條中陽通村名  
取之授門記

四月廿七日

江島寺福元年福

一 將軍持口之山法之

紀元元年

一 知九之山寺

城寺例

四月廿七日



十七日

正月

一 東照宮十二回御忌 御法衣等御御修儀

中の大務

紀年録

一 支那の口見 伊左衛門の口見御御修儀

中右衛門の御御修儀

大正四年  
御御修儀

十八日

同日午 遠江 中右衛門 御御修儀

伊左衛門の御御修儀

御御修儀

古書入 一柳大進御御修儀 口見御御修儀 社奉行御御修儀

古書入 和州御御修儀 口見御御修儀

古書入 伊左衛門の御御修儀 口見御御修儀

古書入 伊左衛門の御御修儀 口見御御修儀

古書入 伊左衛門の御御修儀 口見御御修儀

古書入 伊左衛門の御御修儀 口見御御修儀

古書入 伊左衛門の御御修儀 口見御御修儀

御御修儀



五月大勢

江州藩兵年編國府日記

五月三日 江戸 一 還 御

能列日記

能列日記 福永丹波守 上使方日記

此邊より申すに、此等無事候事、此等無事候事

此等無事候事、此等無事候事、此等無事候事

此等無事候事、此等無事候事、此等無事候事

此等無事候事、此等無事候事、此等無事候事

此等無事候事



一 新樂及聖人之教者 節刀之公國也  
 曰 抑子尾能孫の由縁之病言の乳  
 口可の心好一息は如九の孫は言の事  
 之為成者思言 抑年孫如  
 之為成者又の事如 還所の時  
 一 乃如孫高知事と之孫之新の事  
 之の心好の事如言尾能孫如  
 之の心好の事如言尾能孫如

一 新樂及聖人之教者 節刀之公國也  
 曰 抑子尾能孫の由縁之病言の乳  
 口可の心好一息は如九の孫は言の事  
 之為成者思言 抑年孫如  
 之為成者又の事如 還所の時  
 一 乃如孫高知事と之孫之新の事  
 之の心好の事如言尾能孫如  
 之の心好の事如言尾能孫如

如也







経列日記

一 津島より尾張孫の旗本なるものお侍の半纏云  
 四角仕立の如きものお侍の半纏云然れども此の半纏  
 子尾孫の如く神の如くお侍の半纏也之の半纏は  
 一ツ角仕立の如きものお侍の半纏云然れども此の半纏  
 四角仕立の如きものお侍の半纏云然れども此の半纏  
 一ツ角仕立の如きものお侍の半纏云然れども此の半纏  
 一ツ角仕立の如きものお侍の半纏云然れども此の半纏

六月廿日

お侍日記

経列日記

一 尾張城の如くお侍の半纏云



六月六日

六月七日

五月八日

紀行日記

一 後 將軍孫範之部 上段 福永丹

坂屋



五月九日

坊補定あり坊補定あり 遠所重なりぬ 海御於

以中間の對顔 後進 進宛系 中化

以 此系名義國形元注進編書法中引録あり

宛系 坊補定あり宛系

一 昌彦聖刺發一と 及家と号しなり

法名に叙は

一 河理以安カフ 高通年 及法平と叙は

経列あり

一 師由女経列及なり 城明の能くは

四礼より保との對面あり

一 産稻あり在妻 室子孫 先口板倉内信正

上系ノ師ありありなり 四系ノ也

台及有りなりナキノ旨 病氣少難ク坊ノ経傳

ヲ以申上テニ存一經ヲ秘とるニ依テ相承保

養仕人キリ中ニ有リ年ヲ出有ニ爲ル

一 中ニ有リ年ヲ出有ニ爲ル 伊志福也



時後

山ノ上ノ光社  
山ノ上ノ光社  
山ノ上ノ光社  
山ノ上ノ光社  
山ノ上ノ光社  
山ノ上ノ光社  
山ノ上ノ光社  
山ノ上ノ光社  
山ノ上ノ光社  
山ノ上ノ光社

八月

御禱

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社

山ノ上ノ光社



宣旨に依り大寺高僧等之任に付し勅使之

一 書典に依りて之を以て海内各寺に命ず

一 寺別之表と申す

寺別之表 是下口迄の時を以て

一 寺別之表に依りて之を以て

河橋住持

上福の寺

山田松平の宗子

六月十日

一 寺別之表に依りて之を以て

宣旨に依りて之を以て

宣旨に依りて之を以て

宣旨に依りて之を以て

一 寺別之表に依りて之を以て

宣旨に依りて之を以て

宣旨に依りて之を以て

一 寺別之表に依りて之を以て

宣旨に依りて之を以て



高信

一 喜山虎之而天信卒改中子之乃之所為後高信

中月十二日

中戸元

西丸 喜山虎之而天信卒

一 喜山虎之而天信卒改中子之乃之所為後高信  
四門夜信美 三条大納言及 中院中納言及  
老 城乃此地之山能之

紀列丸

一 西丸 喜山虎之而天信卒改中子之乃之所為後高信  
四門夜信美 三条大納言及 中院中納言及  
老 城乃此地之山能之  
喜山虎之而天信卒改中子之乃之所為後高信  
四門夜信美 三条大納言及 中院中納言及  
老 城乃此地之山能之  
喜山虎之而天信卒改中子之乃之所為後高信  
四門夜信美 三条大納言及 中院中納言及  
老 城乃此地之山能之

増補宛西丸

喜山虎之而天信卒

高信







五月十日

一 <sup>紙列</sup>紙列殿長

又下口也

城守

相國孫子也 某等之

六月十日

六月十日

一 <sup>紙列</sup>丹氣山、清社業也例之存 而此山屬

少神又云如也 <sup>紙列</sup>伊能山、神祇也

上之也、例、伊能山、神祇也、伊能山、神祇也

尾、伊能山、神祇也、伊能山、神祇也

海、伊能山、神祇也、伊能山、神祇也

伊能山、神祇也、伊能山、神祇也



四時より心かきし編後知編後道流流延也  
抄果く又し存三人納之縁あり抄し出四時  
録

五月十日

大西

辰刻大西辰是より一掃也

一 江城子録 公言稱は石削 檀為多道法大右名也

城野菴の室より御無禮の事

五月十日

一 水戸記 一條及四門経子心書流也 城野地也

能く

一 能く 法中九言法能去千二百五十九



由作法之尾流孫ハ四年又西交四行ハ  
由能ニ未也ト云ハ由序也ト云ハ上意行ハ由

鼓

宗信

一 五馬云著政其氏ハ由預之地由由預之  
為年亦病死ト云ハ世傳之云ハ由由預之教也

之 印付

右の記  
四の記  
右の記

- 一 宗信及由預流孫ト云ハ由預之教也
- 一 宗信及由預流孫ト云ハ由預之教也
- 一 宗信及由預流孫ト云ハ由預之教也
- 一 宗信及由預流孫ト云ハ由預之教也

六月廿日

由列ノ記  
由列ノ記  
相國孫相平古事ト云ハ

上作云ハ由預之教也ト云ハ由預之教也  
由列ノ記  
由列ノ記  
由列ノ記  
由列ノ記



六月廿一日

六月廿二日

本朝美利節

一 本朝美利節と云ふは新石録に也

上ノ下ノ年ニ由ル所ナリト云フ事ナリ

右ノ事ニ揚

六月廿三日

一 本朝美利節と云ふは新石録に也

將軍御下ニ由ル所ナリト云フ事ナリ

右ノ事ニ揚



六月廿三日



六月廿四日

六月廿五日

此中乃  
以隆康他方名在須死力子孫乃名 吾今速修其家  
後世金糸  
許在連路宗口之至福均所也

六月廿六日

紀列日記

一 紀列殿之垣

抄年録 皇朝御記

上使内及御書及列日記

抄年録

日記



寛永

一

編纂の事方二回三十の事と云

高橋  
此所記の事は後見の如  
二亦後文の如く

八月廿七日

紀列口元

一 相西村の事と云、其の事は後述の如く、  
其の事は後述の如く、

日

紀列口元、相西村、後述の如く、



上段、永井、後述の如く、

後述の如く、

上段、永井、後述の如く、

後述の如く、

日

後述の如く、

後述の如く、

又、後述の如く、

後述の如く、



去る日記  
 去る日記  
 是ハ諸侯諸侯之為勅使事軍下口是系  
 帝中抄題曰 口地之入 七多門 抄下

去る日記

紀列日記

一 未角三紀列及今 新事及之國之とてとて  
 以向之とてとて進之御事とて新とて及及  
 之とて及及海とて及及之とて及及之とて

相國孫景之孫とて及及之とて及及之とて

半とて思ふとて及及之とて及及之とて

とて及及之とて及及之とて

將軍孫西之とて及及之とて及及之とて

九とて及及之とて及及之とて

去る日記  
 一 侍者元とて及及之とて及及之とて  
 一 侍者元とて及及之とて及及之とて  
 一 侍者元とて及及之とて及及之とて  
 一 侍者元とて及及之とて及及之とて

八月廿九日



左馬頭

一 申す所なきに

あやふしに候様  
治部卿  
親  
一  
一  
一

二月

御講

之

二月

紫花

一 申す所なきに

あやふしに候様

治部卿

一 申す所なきに







宗成名あうは事

一 七 傍所人庄之南より志せり志し申す

し他所へ来りて志す人けりけり

うはら名たき中よりけり捕まへて

トこのり分る男子同形女子宗成名あうは事

一 伴天連して是朝り中にあるとて

系の中へ解りあはる山田宗成事と志し

天連の及是かきとて懐持中へ

ひや死にてより男子同形女子宗成

懐持中へ

一 中より志し志しひやとて

ア志し宗成名あうは事とて

やとけりし他へ懐持中へ

掛

一 七 傍所人あうは事と志し伴天連

名あうは事と志し伴天連



ハテア一ハトコヨハノハ果ク一ハ捕シ  
カクテ此ノコトハ中ノ事トシテ一ハ痛  
クハ此ノ事ハ一ハ子ノ事トシテ一ハ  
一ハ此ノ事ハ一ハ此ノ事トシテ一ハ  
一ハ此ノ事ハ一ハ此ノ事トシテ一ハ  
一ハ此ノ事ハ一ハ此ノ事トシテ一ハ  
一ハ此ノ事ハ一ハ此ノ事トシテ一ハ

寛永六年四月

水野河内守

右言往同抄并新主改申并改河井信房等  
并トシテ中改申井信房等申判  
<sup>七</sup>編多程信信  
信信見ハルハ正徳元年信長將印ハ  
ハ一程子トシテ申ハルハ一ハ  
國主トシテ一ハ初ハ一ハ







六月水戸死小部

一 融水戸死 西成時

一 相國公水戸死 初師伶人之年 上院

國師水戸死 振梓三言 过在三年物之元 子依國傳之秦華秋

右方樂

一 東遊水戸死 廣方外志物通言 豊方上院系位秀 中方外志物通言 廣方外志物通言

一 安摩系水戸死 东在三年府物通言 國師 过在三年府物通言 國師

一 賀殿水戸死 东在三年物通言 上在系物通言 高也正 过在三年物通言 过在三年物通言 东在三年物通言 真



一 養平樂 西雁口元  
过道元  
东友安  
过之卷

一 振武 西雁口元  
芝丹地  
栢重自

一 存志樂  
东上三系附  
过之元  
过之慶

一 散子  
过之系附物也元

右方樂

一 正平樂  
东偏右方附  
林氏系  
林氏系  
林氏系

一 古平樂  
东偏右方附  
林氏系  
林氏系  
林氏系

一 採桑樂  
东偏右方附

一 林秋  
东偏右方附  
林氏系  
林氏系

一 新鞋鞞  
东偏右方附  
林氏系  
林氏系

一 山民卷  
东偏右方附  
林氏系  
林氏系

一 孝德  
林氏系

退如多般

一 七子  
东偏右方附

一 知  
东偏右方附

城馬能の... 四員







六月二十日

奉命出陣 増補 定永 日記

一 大坂の陣 補尾日記 本居孫三 遺下 存

四書存

三

一 親王の忠告 山崎の交 山崎の陣 山崎の交  
長門の陣 山崎の交 山崎の交 山崎の交  
山崎の交 山崎の交 山崎の交 山崎の交

一 院の忠告 山崎の交 山崎の交 山崎の交  
山崎の交 山崎の交 山崎の交 山崎の交  
山崎の交 山崎の交 山崎の交 山崎の交  
山崎の交 山崎の交 山崎の交 山崎の交  
山崎の交 山崎の交 山崎の交 山崎の交  
山崎の交 山崎の交 山崎の交 山崎の交  
山崎の交 山崎の交 山崎の交 山崎の交  
山崎の交 山崎の交 山崎の交 山崎の交



目しちりぬも七かつるまは海に宛思は使ぬ  
此の心を中一乃ちつらつらとあはれぬ

一 東南の角は稽古なる中をきりて

り東南の隅は稽古なる中をきりて

とる板倉の積りたるは是のこころなり

ちうと南のちうと南なり

一 ちのちの定まるるの書はのちの書はのち

多のころころの書はのちの書はのち

作もはるるなりは平に海なり

一 戸田のちのちの移りたるは能く知る

四書はのちのちの移りたるは能く知る

所はるるのちのちの移りたるは能く知る

なり海なり

一 ちのちのちのちの移りたるは能く知る

ちのちのちのちの移りたるは能く知る

一 ちのちのちのちの移りたるは能く知る



中一也板倉内様へ上りて被下し奉り  
 有之長形或形等 内様へ御書申上り  
 別々申上りおと指し奉り人共思召申上り  
 一 人様御書申上り奉り 御書 御書  
 諸君御書申上り奉り 御書 御書  
 執事御書  
 一 上条御書荒川御書 御書 御書 御書  
 御書 御書 御書 御書 御書

寛永九年六月廿三日

右の書付様目表に御書申上り奉り  
 御書 御書 御書 御書 御書

一 御書  
 御書

上様御書申上り奉り



今人集

作付多見相成及

は作事方終りて

終

紀列の記

一 後 抄年終紀列殿の御成程

上段の御成程と云ふは

御成程の御成程と云ふは

御成程の御成程と云ふは

御成程の御成程と云ふは

御成程の御成程と云ふは

御成程の御成程と云ふは

御成程の御成程と云ふは

御成程の御成程と云ふは

御成程の御成程と云ふは

御成程の御成程と云ふは



六月廿日

尖晃 七所 記  
一 大樹 七所 表

初沛 伶人 年

上院 二所

芒 城 見 相

振 梓

三所 山 院 記

年 左 東 柏 友 友  
右 後 園 德 善 兼 秋 右

左

一 迦 隆 額

福 友 友 友 志 物 志 志  
年 左 右 左 右 左 右

福 友 友 友 志 物 志 志  
年 左 右 左 右 左 右

一 萬 葉 宗

年 左 右 左 右 志 物 志 志  
上 右 左 右 志 物 志 志

年 左 右 志 物 志 志  
上 右 左 志 物 志 志

一 柳 李 花

年 左 右 志 物 志 志  
年 左 右 志 物 志 志

一 丹 列 四所

年 左 右

年 左 右

一 北 庭 棠

年 左 右

年 左 右

一 感 揚 棠

年 左 右 志 物 志 志  
年 左 右 志 物 志 志

年 左 右

一 階 王

年 左 右

衣

一 胡 蝶

年 左 右 志 物 志 志  
年 左 右 志 物 志 志

年 左 右

一 藤 利 江

年 左 右 志 物 志 志  
年 左 右 志 物 志 志

年 左 右 志 物 志 志

一 登 天 樂

年 左 右 志 物 志 志  
年 左 右 志 物 志 志

年 左 右 志 物 志 志

年 左 右 志 物 志 志



一 還城案

車決内候

一 物梓

車決右内附  
林大右内附

車決内附  
林大右内

一 胡沓案

車決右内附  
車決右内附  
車決右内附

車決内附  
林大右内  
車決内附  
林大右内

一 細務利

車決内附  
林大右内

一 退出

車決内子

二月七日

左内附

一 出御日向手指成徳院十花ヲ納入是ニ依テ

午申ノ瑞見



六月廿日

六月廿日

一 午時 山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長

山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長

六月廿日

一 山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長

山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長 山崎段 長



作出サレ。尾徳殿の心。上徳也。言三三の成る。尾徳無お美。

由御方ノノ。沖城亦ノノ心。上三三也。

書。東。中。尾。徳。殿。の。心。上。徳。也。言。三。三。の。成。る。尾。徳。無。お。美。

中。尾。徳。殿。の。心。上。徳。也。言。三。三。の。成。る。尾。徳。無。お。美。

尾。徳。殿。の。心。上。徳。也。言。三。三。の。成。る。尾。徳。無。お。美。

尾。徳。殿。の。心。上。徳。也。言。三。三。の。成。る。尾。徳。無。お。美。

二月十一

仙。臺。の。心。上。徳。也。言。三。三。の。成。る。尾。徳。無。お。美。

上。三。三。の。成。る。尾。徳。無。お。美。

公。尾。徳。殿。の。心。上。徳。也。言。三。三。の。成。る。尾。徳。無。お。美。

尾。徳。殿。の。心。上。徳。也。言。三。三。の。成。る。尾。徳。無。お。美。

公。尾。徳。殿。の。心。上。徳。也。言。三。三。の。成。る。尾。徳。無。お。美。

尾。徳。殿。の。心。上。徳。也。言。三。三。の。成。る。尾。徳。無。お。美。



抄りては運具

掛軸 圓信

答 信

水指

草紙

茶入 久我

茶碗 曆

茶杓 利休作

花入 杵之

香合 堆糸

鐙 間飾

硯 織戸

筆架 簞

墨架

十子り物

袋相

答 上巻

水指

香爐

茶入

鹿づら 天目

唐紙

茶 尾上巻

茶杓 織糸作

茶碗

唐紙

酒壺 間飾

掛軸 躍布信

香炉

卓子

利休作

中紙

茶碗

三層

答 糸

茶杓

新蓋

茶碗

カ子

唐紙 間飾

茶入

藤小古海

天目

茶

公 抄りては入御

上巻

山内右衛門尉

清徳公 御付之唐紙 中巻 御付之唐紙 中巻



中<sub>ニ</sub>入<sub>リ</sub>テ 市ノ時 公<sub>レ</sub>花<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>  
市<sub>ノ</sub>業<sub>ニ</sub>古<sub>ク</sub>上<sub>ニ</sub>之<sub>レ</sub>多<sub>ク</sub>車<sub>ノ</sub>郷<sub>ノ</sub>頂<sub>ノ</sub>歳<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>  
如<sub>ク</sub>房<sub>ノ</sub>口<sub>ニ</sub>之<sub>レ</sub>宛<sub>ニ</sub>七<sub>年</sub>之<sub>レ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>納<sub>メ</sub>業<sub>ノ</sub>又  
上<sub>ニ</sub>覺<sub>ス</sub>ア<sub>リ</sub>好<sub>ノ</sub>原 公<sub>レ</sub>如<sub>ク</sub>也 如<sub>ク</sub>律<sub>ノ</sub>  
深<sub>ノ</sub>洞<sub>ノ</sub>テ<sub>レ</sub>以<sub>テ</sub>也 務<sub>ニ</sub>五<sub>年</sub>之<sub>レ</sub>市<sub>ノ</sub>成<sub>ス</sub>房<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>  
務<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>

能組

凡<sub>ノ</sub>心<sub>ノ</sub>カ<sub>ク</sub>矣 如<sub>ク</sub>改<sub>ス</sub>七<sub>年</sub>之<sub>レ</sub>市<sub>ノ</sub>井<sub>ノ</sub>洞<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>也 天<sub>ノ</sub>教<sub>ノ</sub>七<sub>年</sub>之<sub>レ</sub>

養<sub>ノ</sub>上<sub>ニ</sub>如<sub>ク</sub>世<sub>ノ</sub>海<sub>ノ</sub>士<sub>ノ</sub>七<sub>年</sub>之<sub>レ</sub>市<sub>ノ</sub>務<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>得<sub>ス</sub>也<sub>レ</sub>  
務<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>也 市<sub>ノ</sub>成<sub>ス</sub>房<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>ニ<sub>テ</sub>市<sub>ノ</sub>務<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>  
市<sub>ノ</sub>務<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>子<sub>ノ</sub>三<sub>年</sub>之<sub>レ</sub>市<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>也 市<sub>ノ</sub>成<sub>ス</sub>房<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>  
ノ<sub>一</sub>市<sub>ノ</sub>務<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>也 市<sub>ノ</sub>成<sub>ス</sub>房<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>也 市<sub>ノ</sub>成<sub>ス</sub>房<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>也  
頂<sub>ノ</sub>歳<sub>ノ</sub>時<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>也 市<sub>ノ</sub>成<sub>ス</sub>房<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>也 市<sub>ノ</sub>成<sub>ス</sub>房<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>也  
時<sub>ノ</sub>多<sub>ク</sub>也 市<sub>ノ</sub>成<sub>ス</sub>房<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>也 市<sub>ノ</sub>成<sub>ス</sub>房<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>也  
頂<sub>ノ</sub>歳<sub>ノ</sub> 公<sub>レ</sub>市<sub>ノ</sub>自<sub>ノ</sub>市<sub>ノ</sub>者<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>也  
市<sub>ノ</sub>成<sub>ス</sub>房<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>也 市<sub>ノ</sub>成<sub>ス</sub>房<sub>ノ</sub>業<sub>ノ</sub>如<sub>ク</sub>之<sub>レ</sub>也



還所

紀年編<sup>三</sup>後法<sup>ノ</sup>一ノミ<sup>五</sup>  
の法<sup>ノ</sup>リ<sup>ナ</sup>シ

一 水西絲尾法大烟<sup>ノ</sup>之<sup>ノ</sup>痛<sup>ノ</sup>四<sup>ノ</sup>成<sup>ノ</sup>水<sup>ノ</sup>味<sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>也

呈<sup>レ</sup>法<sup>ノ</sup>存<sup>レ</sup>在<sup>レ</sup>所<sup>ノ</sup>城<sup>ノ</sup>心<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>仕<sup>レ</sup>所<sup>ノ</sup>心<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>對<sup>レ</sup>西<sup>ノ</sup>席

名<sup>ノ</sup>声<sup>ノ</sup>記<sup>レ</sup>中<sup>ノ</sup>法<sup>ノ</sup>身<sup>ノ</sup>在<sup>レ</sup>事<sup>ノ</sup>三<sup>ノ</sup>五<sup>ノ</sup>編<sup>ノ</sup>と<sup>レ</sup>曰<sup>レ</sup>還<sup>レ</sup>所<sup>ノ</sup>心<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>心<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>

四<sup>ノ</sup>成<sup>ノ</sup>水<sup>ノ</sup>味<sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup> 法<sup>ノ</sup>同<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>法<sup>ノ</sup>心<sup>ノ</sup>上<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>心<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>

水<sup>ノ</sup>同<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup> 上<sup>ノ</sup>三<sup>ノ</sup>五<sup>ノ</sup>編<sup>ノ</sup>還<sup>レ</sup>所<sup>ノ</sup>心<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>心<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>

城 法<sup>ノ</sup>同<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>還<sup>レ</sup>所<sup>ノ</sup>心<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>心<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>

水<sup>ノ</sup>同<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>

水<sup>ノ</sup>同<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>

一 水<sup>ノ</sup>同<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup> 樹<sup>ノ</sup>法<sup>ノ</sup>是<sup>レ</sup>也<sup>ノ</sup>心<sup>ノ</sup>也<sup>ノ</sup>



一 純元

将軍孫沙弥痛<sup>一</sup>有<sup>一</sup>心<sup>一</sup>也

城<sup>一</sup>以<sup>一</sup>子<sup>一</sup>寄<sup>一</sup>成<sup>一</sup>と<sup>一</sup>流<sup>一</sup>至<sup>一</sup>心<sup>一</sup>扉<sup>一</sup>鼓

六月十日

あすひ

一 木樹<sup>一</sup>は<sup>一</sup>是<sup>一</sup>より<sup>一</sup>痛<sup>一</sup>

如樹の痛も死に苦しむ

一 六月十日 自<sup>一</sup>家<sup>一</sup>中<sup>一</sup>未<sup>一</sup>分<sup>一</sup>也

白<sup>一</sup>子<sup>一</sup>親<sup>一</sup>と<sup>一</sup>他<sup>一</sup>界<sup>一</sup>也

六月十日

あすひ

一 木樹<sup>一</sup>は<sup>一</sup>是<sup>一</sup>より<sup>一</sup>痛<sup>一</sup>く<sup>一</sup>年<sup>一</sup>高<sup>一</sup>く<sup>一</sup>は<sup>一</sup>其<sup>一</sup>止<sup>一</sup>也

一 浄<sup>一</sup>土<sup>一</sup>は<sup>一</sup>何<sup>一</sup>れ<sup>一</sup>也

純元

一 純<sup>一</sup>元<sup>一</sup>友<sup>一</sup>と<sup>一</sup>心<sup>一</sup>也

一 城<sup>一</sup>他<sup>一</sup>心<sup>一</sup>也



針如... 何... 流...

後戸... 及... 親王...

費... 中... 支... 山...

山...

一 親王費... 山... 山...

一 西丸... 山...

山...

伶人... 山...

南... 山... 山...

南... 山... 山...

二月十二日

一 山... 山...

一 山... 山...

山...

山...

山...



左圖は如力に思惟法と申すは是なり  
あつたをわりの思惟法と申すは能なり  
思惟法と申すは心と申すは心と申すは  
候 陽光の心と申すは心と申すは  
秋の心と申すは心と申すは心と申すは  
法うの心と申すは心と申すは心と申すは  
思惟法と申すは心と申すは心と申すは  
心と申すは心と申すは心と申すは心と申すは

相と申すは心と申すは心と申すは心と申すは  
吊おとすは心と申すは心と申すは心と申すは

心  
心  
井  
心  
心

板倉園防古版

心  
心

親王の心と申すは心と申すは心と申すは  
心と申すは心と申すは心と申すは心と申すは



右國司の領之上石友手義成所為給  
尤能始之在也地付之石山村之長濱海濱

二月十七日

信濃守信長  
利信  
麻稿信長  
忠也

三條殿  
中後殿

二月十七日

二月十七日

紀列多紀

一 右軍孫は抑之痛を能くおたす毎  
人々其の如く是れ信長之由也流石



二月廿

紀列夕記

一 紀列殿之候 御年孫為上役松平侯且及  
以上之方は是は御年孫之御一人は御年孫  
御年孫は御年孫之御一人は御年孫  
御年孫は御年孫之御一人は御年孫  
御年孫は御年孫之御一人は御年孫

御年孫は御年孫之御一人は御年孫  
御年孫は御年孫之御一人は御年孫  
御年孫は御年孫之御一人は御年孫  
御年孫は御年孫之御一人は御年孫

二月廿

紀列夕記

御年孫は御年孫之御一人は御年孫  
御年孫は御年孫之御一人は御年孫  
御年孫は御年孫之御一人は御年孫  
御年孫は御年孫之御一人は御年孫



の礼みの御節の痛し御子の四年を、  
侍ら 侍る子との思ふを、  
大なる危しあるは、  
城の中へ

二月廿二日

左筆室の御

一 ね年安んずるに、  
九歳危し、  
病に侍るに、  
悦び

思ふに、  
御節に、  
侍るに、  
悦び

二月廿三日

左筆室の御

一 大なる御節に、  
侍るに、  
悦び

ふより、  
侍るに、  
悦び

安んずるに、  
侍るに、  
悦び



覚

一 人板の巻物より取りたる物に云云  
 一 凡の巻物に云云  
 一 年らり物に云云  
 一 伊勢信忠の巻物に云云  
 一 今中 聞は云云  
 一 下より云云  
 一 中より云云

積と入る道 津袖に道列る事  
 一 古板の巻物に云云  
 一 毎交りし物に云云  
 一 伊勢信忠の巻物に云云  
 一 戸田の巻物に云云  
 一 海原の巻物に云云  
 一 下より云云



一 かしこ

一 中交の事、固防の固る、海軍の

一 東

一 二条、海軍の事、我邦の法、今日、海軍

一 女と海軍の事、今日、海軍の事、海軍の

一 山崎の事、海軍の

一 海軍の事、海軍の

一 海軍の事、海軍の

一 海軍の事、海軍の

一 海軍の事、海軍の

一 海軍の事、海軍の

一 海軍の事、海軍の

一 海軍の事、海軍の

一 海軍の事、海軍の

己よ

寛政七年



右列月書之土地既而治之其計既治後  
官判有り新系改之始也之次第形

二月下写

一 列列可也

一 法也也之也

城守作也之也内館也也

三 山内也

二月下写

一 列列可也

一 和也也列及也也之也 城上車對

而之也也之也力大也也之也也也

也也之也也也也也也也也也也也

上り中も之也

城守也也也也也也也也也也



もた国書

山本の山本... 親王様ニ  
子也... 御座り  
城... 山本... 御座り  
城... 山本... 御座り  
城... 山本... 御座り

相國様... 上... 山本... 御座り  
山本... 御座り  
山本... 御座り  
山本... 御座り  
山本... 御座り

六月廿二日

一 紀列... 山本... 御座り  
一 紀列... 山本... 御座り  
一 紀列... 山本... 御座り

山本... 御座り  
山本... 御座り  
山本... 御座り  
山本... 御座り  
山本... 御座り



此の山部と山部は、  
西の山部と山部は、  
山部と山部は、  
山部と山部は、

山部

一 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部

一 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部  
山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部

一 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部 山部



六月廿六日

六月廿五日

一 紀列及卯刻發誓

六月廿四日

六月廿三日

一 仙名政俊家傳後寛永義子父多於中浦古政力達所  
信列柱田ノ城會邑二名端寛永端寛永







